

勝林寺



いのちって何

葬式がすんで、はや一月。
わたしはもうくたくたです。何年も何十年も過ぎてしまったような気がします。一ぺんに年よって、痴呆になって仕舞えば、よほどいいのにと、そんなことも願っております。しかしなかなかそうはいきません。親子の因果とでもいうのでしょうか、ついつい真剣に「あの子どこへいっちゃっただろう」なんて夢のようなこと考えてしまうのです。

死んだ息子の、その姉が「あんな極道息子、親や兄弟に迷惑ばかりかけどうして、最後世間様に顔向けならん死にようまでして。お父さん。これでやっとなんかお見守りです。お父さん。確かにそうかも知れません。」

かと思うと、あいつの若いお友達は、「神様に召されて天国へ行かれたんです、きつと天国からお父さんをお見守りですよ」と慰めてくれます。

「お浄土へお帰りになった息子さんは、仏さまといっしょにあなたを念じていてくれるのですよ」と、これはお寺さんが繰り返し教えて下さいました。
私は、なんとも複雑な気持ちです。

「厄払い」 確かに親子であってもそう思

います。そうは思いますが、人からそう云われると、やはり死んだあいつが可哀想でいとおしさがつのります。
子供のときのよう抱き締めて頬づりしてやりたい気持ちです。

反対に「天国へ召されて」などという言葉は、慰めにもなんにもなりません。「あんな極道が、あんな悪人が、天国へ行くなんて、それは一体、どんな天国なんだ。ええかげんな無責任なこというな」と腹がたちます。

「お浄土へ帰った」だなんて、だったらあいつはお浄土からこの世にやってきて散々親にも世間にも迷惑かけっぱなしで、涼しい顔してまたお浄土とやらへ帰ったと云うのか。

「いのちってなんや」
「死んだら、本当にどうなるんや」。

忌明け法事までにこのこと解決しなかったら、わたしどうにもなりません。

こうなったらもう人事ではありません。私、わたし自身、私自身の「いのち」とはなんであるのか。

この今生きている「いのち」の生きていることと、死んで行く行き先とを、この「いのち」のなかに実感したいのです。

「いのち」をありありと実感し、生きてよかった老いてよかった死んでもよかったと、この世の一日一日を輝きたいと願うばかりです。

そのとき突然、ほんとうに突然、二十年まえに亡くなったおじいちゃんが突然思い出されました。

中風でこそそしながらいつも云っていたその姿と声です。

「勿体ないな。この浅ましいわしが、如来さまのお慈悲のいのちからめとられて。生きてよし老いてよし、みんなみんな無量寿さまにからめ取られて。南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏」

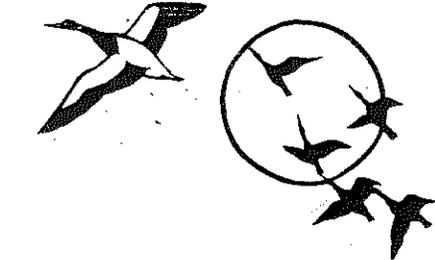


浅原才市の詩

○わたしゃあわせ
いきさせ
まいる浄土が
なむあみだぶつ

○さいちや 死んでまいるかい
いやノ 死なずにまいるかい
息きれず このまままいること
名号ふしぎも 息きれず
名号ふしぎは ありがた
ごおんうれーや なむあみだぶつ

○さいちよ
われはみらいを たすかるか
みらいのことは わしゃらぬ
それでも われは
ねんぶつ とをえるではないか
ねんぶつ とをえるではないか
わーが とをえるではないか
ねんぶつ
じこうから 鳴り出るのでこそあり
わたしゃ らんぶんかんぶんで
なにがなにやら わしゃらぬ
ごおんうれーや なむあみだぶつ
ごおんがあるよ ごおんがあるよ
ばかご おん もろうたよの
ごおんうれーや なむあみだぶつ



浅原才市さんは、島根県温泉津町(前坊守のふるさと)小浜で下駄作りをしていました。近くの安楽寺にお参りして聞法したそのおあじわいを下駄を削ったカンナ屑に書き付けた。七十年ほどまえに亡くなりましたが、才市さんのうたった詩のころは今も石見の国一帯に歌い継がれています。

十月のこよみ

- 一日 教区基幹運動推進委員会
- 二日 連研履修者研修会
- 三日 知的障害者援助者養成研修
布教同士の会聞法の集い(姫路)
- 四日 同
- 五日 出石福祉まつり・町民運動会準備
- 六日 町民運動会
- 八日 講習会・朗読アナウンス研修会
但馬僧侶の会「喜愛」研修会(玉穂)
- 九日 同
- 十日 斎藤義明氏宅法事
但東町役場
- 十一日 西宗寺報恩講
- 十二日 西宗寺報恩講
龜井 孝氏宅法事
- 十三日 生田 善一氏宅法事
- 十四日 パワーアップ・セミナー
- 十六日 十六夜会定例法座
- 十九日 瀬尾氏宅忌明法事
- 二十日 平野 稔氏宅法事
長良小学校疎開児童探訪来寺
敬老報恩講舞台準備
- 二十一日 神戸別院研修会
- 二十三日 別修 (敬老) 報恩講
- 二十四日 検診
- 二十五日 ケアマネ研究会
- 二十六日 こどもまつり
善立寺報恩講
みのりを聞く会定例法座
- 二十七日 同 田中啓次氏宅法事
- 二十八日 録音ボランティアあすなろ
- 三十日 豊岡市



誕生日バンザイ!



私が日々通って、いろんなことを学ばせていただいている「障害者育成へはこべの家」共同作業所」の宮下所長さんが書いて下さいました。

だれにも一年に一度訪れる嬉しい誕生日。作業所に通ってくる仲間たちも、自分の誕生日が近づくとウキウキソワソワ、その日を待っています。

何年前か、いまよりも人数が少なかったころは、ケーキを食べながら誕生日を祝っていたのに、いつの頃からかケーキもなくなり、誕生日のその日に♪ハッピーバースデートウユー♪の合唱プレゼントだけにまわってしまいました。

六月のある日。ひとりのメンバーの誕生日。待ちに待ったその日を迎えた彼は朝から上機嫌でした。みんなからの歌のプレゼントもにこやかに受けてくれました。

「今夜はぼくの家でパーティーだあー」と帰ったその翌日の「連絡ノート」におかあさんからのメッセージ。

「当時、とても長生きはむずかしいと云われたこの病気……。休まずに作業所へはこべへ通えることを大変嬉しく思います。この一日一日を大切にしたいと思えます」とありました。

何度読んでも胸が熱くなります。

生きていくのが当たり前のように思う毎日だけれども、一年一年誕生日を迎えられるって、なんて幸せなことなのでしょう!

年齢がいけばいく程、誕生日なんかかきまわすくはないなァーなんて思っていますか?

子供も大人も、自分の誕生日はもろろんのこと家族やお友達の誕生日を、感謝と喜びの

気持ちで迎えられたら、きっと生きていくことがとても幸せなことだと気づくのではないのでしょうか。

「はこべの家」では、今年四月から始まった給食のなかに、誕生月のリクエストメニューをいれることになりました。

お寿司かな? ハンバーグかな? 誕生日の楽しみが一つ増えた作業所です。



別修(敬老)報恩講

十月二十三日(水曜日)

山に映える紅葉、野にすだく虫の声に、秋の深まりを感じるこのごろです。お変わりございませんか。お伺い申し上げます。

《仏仕仏婦でおつとめしていた、毎月の「みのりを聞く会」に、お参りできない遠方のお年寄りとも、せめて年に一度でも、共々に、おみのりに合わせていただきたい》という願いから始められました。

今年も、仏仕仏婦会員こそぞってお待ちしております。どうぞお誘い合わせ、お参りご参加くださいませ。

送迎バスを差し向けます。ご利用ください。

佐田・栗尾 4:00 → 正法寺 4:05 → 小谷 4:10 → 出合 4:15 → 市場 4:20 → 矢根 4:25

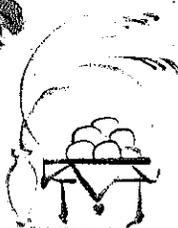
和屋 4:50 → 榎見 5:00 → 坪口 5:05

上小田 4:30

進行 五時半 開会

- 【一部】
① 仏社会長開会の挨拶
② おつとめ「正信偈(草譜)」
③ ご法話

- 【二部】
④ 仏婦会長歓迎の挨拶
⑤ おとき
⑥ 門徒総代あいさつ
⑦ 懇親演芸会 (閉会 九時予定)



勝林寺テレホン法話 ききましよう

毎月 1日 10日 20日 に変わります。

0796-52-5800

ご門徒その他老若、いろいろのかたのご意見やお味わいを編集して電話でお届けしています。折々のご法座のご案内もいたします。

一度聞いてみてご意見などお寄せ下さい。